

実践例 「学校・学級経営の深化・充実」

「課題2 ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・ 学級経営の創造と推進」

I 学校名 鹿追町立瓜幕小学校【十勝管内】

II 研究の概要

本校では、「教職員のウェルビーイングを目指して」をテーマに掲げ、教職員が生き生きと仕事に取り組み、子どもたちが主体的にワクワクしながら学ぶ授業を展開する学校を目指してきた。

その背景として、以下の課題があった。

1 教員の超過勤務の深刻化

- ① 年間超過勤務時間の上限である360時間を超えている教員が8割以上を占めていた。
- ② 長時間勤務が教職員の疲弊を招き、教育の質の低下を引き起こしていた。

2 授業スタイルの課題

- ① 旧態依然とした一斉授業が中心であり、子どもたちの主体的な学びが十分に促されていなかった。
- ② 探究的な学びや協働的な学びを推進する環境が不足していた。
- ③ デジタル技術の活用が進んでおらず、ICT教育の遅れが見られた。

III 実践例

1 教職員で学校課題改善ワークショップを実施

教職員自身が学校の課題を把握し、主体的に改善に取り組めるよう、ワークショップを実施した。

① 内容

ア 教職員が付箋を用いて学校の課題を洗い出し、共有。

イ 課題を各分掌および管理職で検討し、優先順位を決定。

ウ 次年度の学校運営計画に反映

エ P T A 役員、地域の有力者、P T A 総会、授業参観の全体懇談会で学校改革の方向性を説明し、理解を求めた。

オ 実施



② 改善した学校課題（30項目以上）

・ 通知表の所見廃止し、年3回の保護者面談を実施 ・ 家庭訪問を学校での面談に変更 ・ P T A 組織を改編し、教員・保護者の負担を軽減 ・ 学校での写真データの取り扱いをP T A の組織の中に入れる ・ 学校評価項目の一部を保護者が設定し、学校改善に生かす ・ 学校課題改善ワークショップ（地域・保護者・教員）を実施 ・ ゴールデンウィーク中のP T A 環境整備作業を廃止 ・ 地域、保護者、教員の合同運動会後の打ち上げ行事をP T A 主催の運動会前日の地域、保護者、教員、児童レクに変更 ・ 運動会種目の一部を地域の活性化を目的とした有志団体「笑顔プロジェクト」が担う形に変更 ・ 学校が担っていた自然体験留学連絡協議会の事業部の業務を留学センター長に委譲 ・ 全校で実施していた夏休み作品展をスリム化 ・ 水泳記録会をスリム化 ・ 瓜幕地区秋祭りで実施しているマラソン大会を別日に変更 ・ 学習発表会の内容を変更、スリム化 ・ 学級経営案作成を廃止し、学校運営、学級経営研修会を実施 ・ 小中研修部長会議を実施し小中の連携を強化 ・ 町内の小学校研修部長会議を実施し小小の連携を強化 ・ 中学校体験入学で中学校の授業体験を計画してもらうよう依頼 ・ 地域公開参観日の案内チラシを新聞への折り込みに入れるのをやめ、町の広報カレンダー記載 ・ 瓜小ガイドを作成し、登校時間、電話対応時間を明記 ・ 運動会の開閉会式を簡略化（特性を持つ児童に配慮） ・ 主体性と対話を意識した避難訓練の実施 ・ 主体性と対話を意識した不審者侵入訓練の実施 ・ 実践力向上を意識した1日防災学校を実施 ・ 学習指導案の形式を変更し、実践的で負担の軽減した形へ変更 ・ 学校文集を廃止 ・ 重点目標、鹿追町の教育大綱から、めざす児童像を全教職員で共有 ・ 学校花壇を地域へ移譲→廃止 ・ 放課後の時間を生み出すために週に1回の休み時間を短縮した特別日課を実施

2 教職員、地域の方、保護者で学校課題改善ワークショップを実施

地域との連携を強化し、学校運営をより開かれたものにするため、教職員だけでなく地域の方々や保護者とともにワークショップを行った。課題解決に向けて次の2点が動き出した。

① 地域との協働による子ども神輿の運営改革

ア これまで学校が主体となって実施していた秋祭りの子ども神輿を、地域が担う形に移行。

イ 地域の団体と連携し、子どもたちが地域とのつながりを深められる機会を創出。



② キャリア教育の充実

ア 地域の魅力的な大人と児童をつなぎ、質の高いキャリア教育を展開するための

しくみを検討。

イ 地域の職人、農家、経営者など多様な大人が子どもたちと関わり、探究学習の一環として実施。



3 先進的な実践に学ぶ探究教育の深化

① 本校の校内研究では、「探究」をテーマに掲げ、先進的な実践の学びを深めてきた。具体的には、以下の取り組みを行った。

ア 札幌開成中等教育学校の視察

鹿追町が推進する探究教育を展開するため、鹿追町視察団の一人として研究主任が参加し、探究的な学びの具体的な考え方を学ぶ。



イ 他校の先進的な研究との連携

研修担当者となつながら、実践の知見を共有。

ウ 国際バカロレア教育の取り組みを学ぶ

認定を目指す中学校のコーディネーターと連携し、探究学習の質を向上。

エ 鹿追町の研究発表大会の実施

教職員が成果を共有し、学びを深める場を設ける。
これらの取り組みにより、探究学習の充実と深化を図っている。



② 確立した瓜幕小スタイルの探究学習

全教科で以下の探究学習サイクルを展開



Ⅲ おわりに

これらの取り組みを通じて、学校は大きく変革

1 超過勤務の削減

① 教職員の超過勤務時間を徹底的に見直し、年間360時間を超えるような状況をゼロに。業務の効率化と適正な労働環境の確保に成功。

② 教職員のワークライフバランスが改善し、授業準備や教材研究に充てる時間が増加。

2 授業の質の向上

働き方改革により、教師が授業改革に取り組む余裕が生まれ、授業の質が大幅に向上。

3 教職員の意識改革

「学校を変えられる」と考える教職員の割合が、8名中7名に向上。教職員のモチベーションが向上し、学校運営に対する主体性が高まった。

本校は、ふるさとに根ざした学びを大切にしながら、新しい時代を切り拓く学校経営を推進し続ける。今後も、地域とともに歩み、開かれた学校づくりを進めていくことを誓う。